

令和 6 年 6 月 4 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2023

課題番号：17K02170

研究課題名(和文)「生殖」から見る倫理学 ジェンダー・身体・他者を軸に

研究課題名(英文)Ethics in terms of reproduction: based on gender, body and Other

研究代表者

中 真生 (NAKA, Mao)

神戸大学・人文学研究科・教授

研究者番号：00401159

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：一方で、避妊、妊娠、不妊、中絶、出産、養育、親であることといった、性差や個人差の大きな具体的主題を扱いつつ、他方で、人間が生まれ、成長し、次世代に引き継ぎ、老い、死んでいくという誰にでも普遍的に当てはまるより広義での「生殖」の観点からも、生殖するものとしての人間を考察した。哲学ではあまり扱われなかった「生殖」を、身体やジェンダーと深く関連させながら、具体例にも目配りしつつ、哲学倫理的に考察した。なかでも、「母性」の従来の見方を分析し解体しつつ、「母性」の核と思われるところは維持し、そこに出産していない男性や、血の繋がりのない養親らも含めることで「親であること」を再考した点には意義がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「生殖」という一貫した大きなテーマのもと、様々な主題を哲学倫理的に考察し、その成果を多くの論文や口頭発表、そして単著として発表することができた。それが取り上げられることで、学術的な議論を喚起することができた。

また、著作として出版したことで、一般の人々にも広く研究成果を伝え、読者の少なくとも一部に、自らや身近な人々の生を生殖から顧みる一つの視点を提供することができたのではと考える。そして、「赤ちゃんポスト」や、養子縁組、児童養護、父親や養親の葛藤、「母性」という見方など、社会的に重要な問題も多数取り上げて考察することで、社会的関心を高め、改めてこれらの問題を考えるきっかけを提供できた。

研究成果の概要(英文)：On the one hand, the research dealt with specific topics such as contraception, pregnancy, infertility, abortion, childbirth, child-rearing, and being a parent, which involve significant gender and individual differences. On the other hand, it also examined the human being as reproductive, taking into consideration the process of being born, growing, passing on to the next generation, aging, and dying, which applies universally to everyone. "Reproduction", which has not been extensively addressed in philosophy, was examined in this research in close relation to the "body" and "gender," while also considering concrete examples. Among other things, the significance lies in the fact that it deconstructed the conventional view of "motherhood" and reconsidered "parenthood" to include not only biological mothers but also men who do not give birth and adoptive parents without blood ties.

研究分野：哲学・倫理学

キーワード：生殖 身体 ジェンダー

1. 研究開始当初の背景

哲学倫理学においては、「生殖」についての本格的な研究は、国内では、小泉義之『生殖の哲学』、同『弔い・生殖・病の哲学』や、檜垣立哉『子供の哲学』など数冊の著作を除いてはあまりない。しかも、妊娠し出産する機能と経験をもちうる女性とそうでない男性との性差や、子どもを持つ人とそうでない人がいるという個人差を重視し、細かに考慮に入れつつ、人間全般に共通する普遍的なレベルでも生殖を考察する研究、また、妊娠、中絶、出産、養育といった具体的現象を正面から取り上げた哲学倫理学的研究はそれまでなかった。

2. 研究の目的

研究の軸となったのは、自分の知やコントロールを超えた「他なるもの」との関係が、主体のあり方をどう形成しており、また変容させるかを、身体の次元で具体的に解明することだが、本研究は特に「生殖」の観点からこれに切り込むことを目的とした。人間を生殖するものと見る見方は、身体や性（ジェンダー）、そして他のものとの関係の考察を不可分なものとして要請する。また、個人の経験の次元で見れば、生殖には、生む生まないといった性差や個人差が本質的な要素として含まれる。本研究は、「生殖」を基軸とすることで、一方の、具体的な経験を掘り取る研究と、他方の、差異や特殊性を考慮した上でなお、それらに通底する主体のあり方を浮かび上がらせる理論的研究とを、ジェンダー・身体・他者の観点から統合した倫理学を構築することを目的とした。

3. 研究の方法

本研究はとくに次の四つのテーマに焦点を当てた。「不妊・妊娠・出産・中絶・養育」、「母性」の再考、「生殖における父親や養親の経験」、「生殖技術の考察」である。

文献読解を中心とした理論的研究においては、欧米及び日本のフェミニズム思想、ジェンダー研究、社会学、心理学などにおけるの研究を推し進めた。さらに、それらの研究から、生殖に関する諸個人の具体的な経験を考察するのに有用な視点、枠組み、概念を取り出したり、それらの批判的検討を経て、新たに創出する作業を行った。

研究成果の発表は、国内での学会発表、国際シンポジウムでの発表、論文執筆、論文集への寄稿、単著の執筆、海外（イギリス）での学会や研究会での発表、国際論文集への寄稿という方法を用いた。これらの発表を通じて、近い領域の研究者たちと議論を行い、着想を得るとともに、批判を考慮しながら、本研究の主張を洗練させることができた。

また、国内とアイスランドでインタビューを行って、そのデータを分析し、具体的な経験に即した考察に採り入れた。

最終的には、生殖に関する具体的事象に目配りした経験的視点と理論的視点が有機的に統合された生殖に関するひとつの統合的な研究を練り上げる作業を遂行した。

4. 研究成果

(1) フランス思想を手がかりに「母性」について再考する研究を行い、2017年9月に行われた日仏哲学会大会シンポジウムで提題し（「産む性」をめぐって—生殖と「母性」再考）、論文にまとめて発表した（『フランス哲学思想研究』第23号、2018年）。

(2) 日本のフェミニズム思想に関する研究として、「母性」を軸に日本の近代フェミニズム思想を考察した論文（"Some Glimpses at Japanese Feminist Philosophy: In terms of Reproduction and Motherhood"）を執筆し、2018年に刊行の論文集に寄稿した。また、この研究の要点をストックホルム大学で行われたセミナー、「Feminist Phenomenology: Perspectives from Japan」（2017年6月12日）で発表し、北欧研究者との間で意見交換を行った。

(3) 日本を中心とした育児放棄と新生児養子の問題と課題を、とくに「赤ちゃんポスト」に焦点を当てて考察した発表を（"Alternatives to terminating the life of a baby or a fetus: From "Baby Post" to Pregnancy conflict counseling"）、国際シンポジウム・ワークショップで行い、オックスフォード大学のウルフ教授や日本の参加者と意見交換を行った。

(4) 「母であること」(motherhood)を、ジェンダー、身体、他者との関係に着目しながら再考し、産むこと、「母」であること、言いかえれば、育てることをはじめとした一番の親であることを、分離して考える必要があること、そして「母であること」は、子ども産んでいない男親や養親にも拡大しうることを主張し、雑誌『思想』に寄稿した論文にまとめた。また、2018年

度にアカデミックヴィジターとして所属していたオックスフォード大学ウエヒ口実践倫理センターのセミナーで発表し、参加者と議論した。

(5) 産むことと第一の親であることの分離の具体例の一つとして、「赤ちゃんポスト」の問題を取り上げ、イギリスで開催された国際学会で発表した。さらに、所属センターの開催する多数のセミナーや講演会を通じて、あるいはイギリスで開催されたシンポジウムを通じて生殖技術や妊娠・出産に関する最先端の研究に触れ、意見交換をすることができた。

(6) アイスランドで、アイスランド大学教員や市役所の男女平等政策にかかわる職員に、「生殖とジェンダー」というテーマでインタビューを行った。

(7) 父親や養親の側に視点を置き、そこから生殖の経験を見ると何が言えるかを考察した。本研究の前半では、母親側からの考察が主だったが、それらを反対の視点から再考し、母親に置かれがちな重心をずらすことで新たな視点から考察を展開した。

(8) 具体的事象や事例に焦点を当てた研究と、レヴィナスの思想とをつなげる考察を行った。レヴィナスの「繁殖性」という重要な概念のひとつを、哲学の文脈にとどまらず、生殖の具体的な文脈の中で理解することを試みた。産んだこと、血のつながった親であること、自分の子どもがいることをそれぞれ、子どもとの関係で優位な条件と無批判に考えられていることに疑問を呈して批判的考察を行った。

(9) 以上の研究を通して、生殖に関し、性差や個人差を捨象しない視点を重視しつつも、それらの差を固定化せず、生殖しうる人間主体の普遍的なあり方の考察にも接続する、統合的な倫理的考察を展開することができた。

(10) 本研究開始から生殖の様々な領域に関して蓄積してきた論文の考察、資料を踏まえた上で、生殖全般を俯瞰するかたちで、生殖における選択、性差、身体性、他なるものの経験などの主題を考察し、単著、『生殖する人間の哲学——「母性」と血縁を問い直す』(勁草書房、2021年)にまとめ、出版することができた。

(11) 出版後に、著書の合評会がふたつ(レヴィナス協会主催、科研費国際共同研究(B)「子育ての現象学：フィンランド・ネウボラをフィールドに」(浜渦辰二代表)主催)著書に関する対談がふたつ(BH チェンネル、論壇チャンネル「ことのは」)開催され、研究成果とその意義を研究者だけでなく一般の人にも広く伝えることができた。

(12) 親鸞仏教センターでの「現代と親鸞」公開シンポジウム：<いのち>という語りを問い直すで、「いのちとその産み育ての結びつきと分離——「母性」、出生前診断、「赤ちゃんポスト」などを手がかりに」という提題を行った。さらに先述の科研費「子育ての現象学」主催の国際研究会、Second Online session on child care phenomenology で発表、「The Public and the Private in Childbirth and Childcare Second Online session on child care phenomenology」を行った。これらの発表は著書の出版後の業績であり、著書では十分論じきれなかった「母性」の側面を、著書出版前後に刊行された母性に関する著作や、日本の近代の母性に関する状況も検討しながら掘り下げることができた。

(13) 老いや死別に関する研究を開始し、広義の「生殖」に含まれると考える親子関係を、小さい子どもと親の関係にとどまらず、親の老いに伴う、介護や新たなケアの必要などの親子関係の変化や、死別も含めた親子関係の後半についても考察を展開した。老いについては「老いゆくこと、他者との関係」という論文にまとめることができた。

(14) 「喪失」に関する研究を具体化し、推し進めることができた。「喪失」という主題は、本研究課題のメインテーマである「生殖」のうちに位置づけられ、本研究課題の研究をさらに展開するものである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 中真生	4. 巻 47
2. 論文標題 いのちとその産み育ての結びつきと分離 「母性」、出生前診断、「赤ちゃんポスト」などを手がかりに	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 現代と親鸞	6. 最初と最後の頁 19-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中真生	4. 巻 なし
2. 論文標題 喪失という攪乱－死別を中心に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 あrawれを哲学する	6. 最初と最後の頁 214-229
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中真生	4. 巻 なし
2. 論文標題 生殖技術と身体 身体はどのように被っているか	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 3STEPシリーズ 応用哲学	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中真生	4. 巻 なし
2. 論文標題 老いゆくこと、他者との関係	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 フェミニスト現象学	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中 真生	4. 巻 -
2. 論文標題 老いゆくこと、他者との関係	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 フェミニスト現象学	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中 真生	4. 巻 47
2. 論文標題 いのちとその産み育ての結びつきと分離 「母性」、出生前診断、「赤ちゃんポスト」などを手がかりに	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 現代と親鸞	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中 真生	4. 巻 なし
2. 論文標題 生殖における「間接性」 父親と養親の視点から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 2016年度 - 2018年度 科学研究費・基盤研究(B) (一般) 「北欧現象学者との共同研究に基づく人間の傷つきやすさと有限性の現象学的研究」研究成果報告書	6. 最初と最後の頁 39-64頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中 真生	4. 巻 31号
2. 論文標題 生むことから分離した「親」の形成 父親と養親の「間接性」を手がかりに	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 神戸大学文学部哲学懇話会紀要『愛知』	6. 最初と最後の頁 74-94頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中 真生	4. 巻 1141
2. 論文標題 「母であること」(motherhood)を再考する 産むことからの分離と「母」の拡大	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 140-159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中 真生	4. 巻 31
2. 論文標題 産むことから分離した「親」の形成 父親や養親の「間接性」を手がかりに	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 愛知	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中 真生	4. 巻 1141
2. 論文標題 「母であること」(motherhood)を再考する 産むことからの分離と「母」の拡大	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 140-159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mao NAKA	4. 巻 2018
2. 論文標題 "Baby-Hatches" in Japan and Abroad: An Alternative to Harming Babies	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The European Conference on Ethics, Religion & Philosophy 2018: Official Conference Proceedings	6. 最初と最後の頁 なし
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 中 真生	4. 巻 34
2. 論文標題 「産む性」をめぐる 生殖と「母性」再考	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 フランス哲学・思想研究	6. 最初と最後の頁 11 - 24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件 (うち招待講演 9件 / うち国際学会 6件)

1. 発表者名 中真生
2. 発表標題 喪失の現象学? 失われたもうひとつのもの
3. 学会等名 哲学会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 NAKA Mao
2. 発表標題 The Public and the Private in Childbirth and Childcare
3. 学会等名 Second Online session on childcare phenomenology (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中 真生
2. 発表標題 生殖技術と身体 出生前診断と選択的中絶を中心に
3. 学会等名 応用哲学会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Naka Mao
2. 発表標題 The Public and the Private in Childbirth and Childcare
3. 学会等名 Second Online session on child care phenomenology (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中 真生
2. 発表標題 『生殖する人間の哲学』のエッセンス
3. 学会等名 『生殖する人間の哲学』 オンライン合評会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中 真生
2. 発表標題 いのちとその産み育ての結びつきと分離 「母性」、出生前診断、「赤ちゃんポスト」などを手がかりに
3. 学会等名 親鸞仏教センター主催シンポジウム：<いのち>という語りを問い直す（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中 真生
2. 発表標題 「生むこと」あるいは「生まれること」における個別性と普遍性
3. 学会等名 日本アーレント研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中 真生
2. 発表標題 産むことから分離した「親」の形成 父親や養親の「間接性」を手がかりに
3. 学会等名 哲学会大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中 真生
2. 発表標題 「生むこと」あるいは「子どもとの関係」における個別性と普遍性
3. 学会等名 日本アーレント研究会定例会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Mao NAKA
2. 発表標題 " Reinterpretation of Motherhood: Separating it from Giving Birth "
3. 学会等名 Oxford Uehiro Centre Work in Progress Seminar（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mao NAKA
2. 発表標題 " Baby-Hatches " in Japan and Abroad: An Alternative to Harming Babies
3. 学会等名 European Conference on Ethics, Religion & Philosophy（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 M a o N A K A
2. 発表標題 Some Glimpses at Japanese Feminist Philosophy: In terms of Reproduction and Motherhood ”
3. 学会等名 Workshop within the framework of the Seminar in Feminist Continental Philosophy in Stockholm at Stockholm University and Philosophy at Södertön University) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中 真生
2. 発表標題 「産む性」をめぐる 生殖と「母性」再考
3. 学会等名 日仏哲学会大会シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 M a o N A K A
2. 発表標題 Alternatives to terminating the life of a baby or a fetus:
3. 学会等名 International Symposium and Workshop by Interfaculty Initiative in Advance Researches at Kobe University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 中 真生	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 320
3. 書名 生殖する人間の哲学 「母性」と血縁を問い直す	

1. 著者名 Tsuyoshi Matsuda, Jonathan Wolff, and Takashi Yanagawa (eds.)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 461
3. 書名 Kobe University Social Science, Risk and Regulation of New Technology	

1. 著者名 中 真生 (宮園健吾・大谷弘・乗立雄輝編)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 武蔵野大学出版会	5. 総ページ数 396
3. 書名 因果・動物・所有 (第八章:「死の所有」と生のリアリティ)	

1. 著者名 Mao NAKA (ed. by Tsuyoshi Matsuda, Jonathan Wolff, Takashi Yanagawa)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 323
3. 書名 Risks and Regulation of New Technologies (Reinterpreting Motherhood: Separating Being a "Mother" from Giving Birth)	

1. 著者名 中 真生 (共著者)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 中央公論社	5. 総ページ数 704
3. 書名 哲学すること	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------